

開所日時 月・水・木・金曜日  
15 時～18 時  
土曜日 10 時～13 時



児童デイ  
音楽教室と聴覚過敏



児童デイでは毎月第 3 土曜日に講師の先生に来ていただいて、音楽教室を行っています。

音楽療法で使われる音楽や活動は、失敗体験の多い子ども、音楽活動を通してグループ活動に参加できるようになったり、学習に必要な集中力や認知の能力を高めることができます。発達障害などの根本的な治療が困難なケースでも、音楽療法を通じて生き辛さが和らいだり、喜び多く過ごせるなど、援助できることはたくさんあると考えています。

しかし、一部の視覚や聴覚に過敏さをもっている子どもたちにとっては、刺激が強すぎて、せっかくの先生のご指導も不快になっているのではないかと感じることがありました。

その為の具体的な支援として、「無理に活動に参加させない」と同時に、不快な刺激を避ける工夫を実践してきました。例えば、聴覚に過敏さをもつ子には『イヤーマフ』という耳栓をつけてもらったり、広場の奥に扉のついた部屋を設け、そこに入って一定時間予測不可能な音や人の動きから回避できるようにしました。

支援を始めてから 1 年ほど経ちますが、その結果、「苦しくなったら回避できるんだから、ちょっとやってみようかな？」という感じで、今まで音楽教室が不快で時にはパニックを起こしていた子どもたちも、徐々に活動に挑戦することができるようになってきました。

その姿に職員一同、驚かされると同時に、とても嬉しく思っています。



イヤーマフを着けてピアノを弾く I 君

### 障害福祉ケア報告 「連携」



#### ▼退院に向けた連携

A さん 57 才、自宅で転倒してからは歩行器を使っての室内歩行となった。入院中から歩行リハビリを受け、在宅サービスの対応が整って退院された。

退院と同時に、病院のケースワーカーや支援センターの職員、サービス事業所の担当者が集ってすぐにサービス開始の調整を行い、トイレに手すりが付き、和式トイレに便座が取り付けられた。ヘルパーは買物に走り、掃除も行った。

#### ▼行政との連携

ひとり暮らしの生活が始まって、すぐに困難が次々と生じた。身体的に歩行がスムーズに行えないため、トイレに間に合わないこともあり、取りあえず本人の了解のもと紙パンツを着用することになった。

当初の訪問介護の希望回数では足りなくなり、サービスの支給量を増やしてもらおう、本人に代わって市に申請に出向いた。

#### ▼事業所との連携

手狭な借家で、必要以上に住宅改修もできないが、何処に手すりを付けたら動作が楽か、住宅改修の担当者や支援センターとの連絡を頻繁にし、サービスの内容をひとつひとつ検討する。

介護サービスの中で、複数の事業所が関わる場合、事業所同士の「連携」が特に必要である。サービス全般を把握するケアマネが存在しない障害福祉サービスの場合は、さらにその「連携」が大きな要とも言える。

利用者にとって必要なサービスとは「これしかできない」ではなく「希望したいことができる」サービスに近づきたい。

### ミニデイだよ!

#### ふれあい

毎月第 3 火曜日の午後には、地域の女性の会の方がボランティアでお抹茶をたてに来てくださっています。

ある日、長年来お抹茶をたしなんでいらしたという K さんが、お手前を披露してくださいました。普段とは違った、凛としたお姿に一同は、惚れ惚れいたしました。

また女性の会の皆さんは近所に住んでみえ、利用者さんの中にはお知り合いという方もおられます。「久しぶりやねえ。あんたんこの、息子さん元気かね？」など懐かしくお話しをされたりして、井戸端会議のような時間を過ごされています。

一宮まごころは地域の中での助け合いを基本として活動しておりますが、たくさんの方々に支えられて成り立っている事を実感しています。本当にありがとうございます。今年も利用者さんと共に、楽しくふれあえるミニデイに取り組んで参ります。



今年も干支の置物を作りました

### 心づれづれ



#### デイサービスの魅力

デイサービスには不思議な魅力があります。お風呂に入るところ、リハビリをするところなど。でも私が思う一番の魅力は、仲間が出来ること。人間関係が出来ることだと思っています。

全く新しい人間関係を作っていくことは、思った以上に大変なことです。ましてや年齢を重ねてからは、より大変なことになります。初めは、ひとまずお風呂に入るため・・・などでいらっしやいます。でも、いつの間にか、思いが変わっていくのを感じます。

あの人が、来るから行く。あの人と合えるのが嬉しい。あの人と話しがしたい。あの人とトランプがしたい。あの人が頑張っているから、私も頑張らなくちゃあ。

一人でいることは、誰にも気兼ねをすることもなく「あんき」です。でも・・・。ず～と一人では、人生を歩んでいくことはあまりにも味気ない。

だから誰かと関わっていく。関わっていくことで、辛いこと、悲しいこともあったりするけれど、でも楽しいことも嬉しいことも同じ位ある。それ以上かもしれない。そんな小さな喜びの積みかさねが、人生なのかもしれません。そんな素敵なたみかさねが、デイサービスの場面にたくさんあり、私にとっては愛すべき場所でもあるのです。今日もみなさんのお声を聞きながら事務仕事をして、微笑んでいる私です。

NPO 法人お達者くらぶ  
代表 五藤万里代

上鍋利行	寒に咲き なに想うかな さくら草	頭髪が 桜散るよに パラパラと	投句川柳
------	------------------------	-----------------------	------